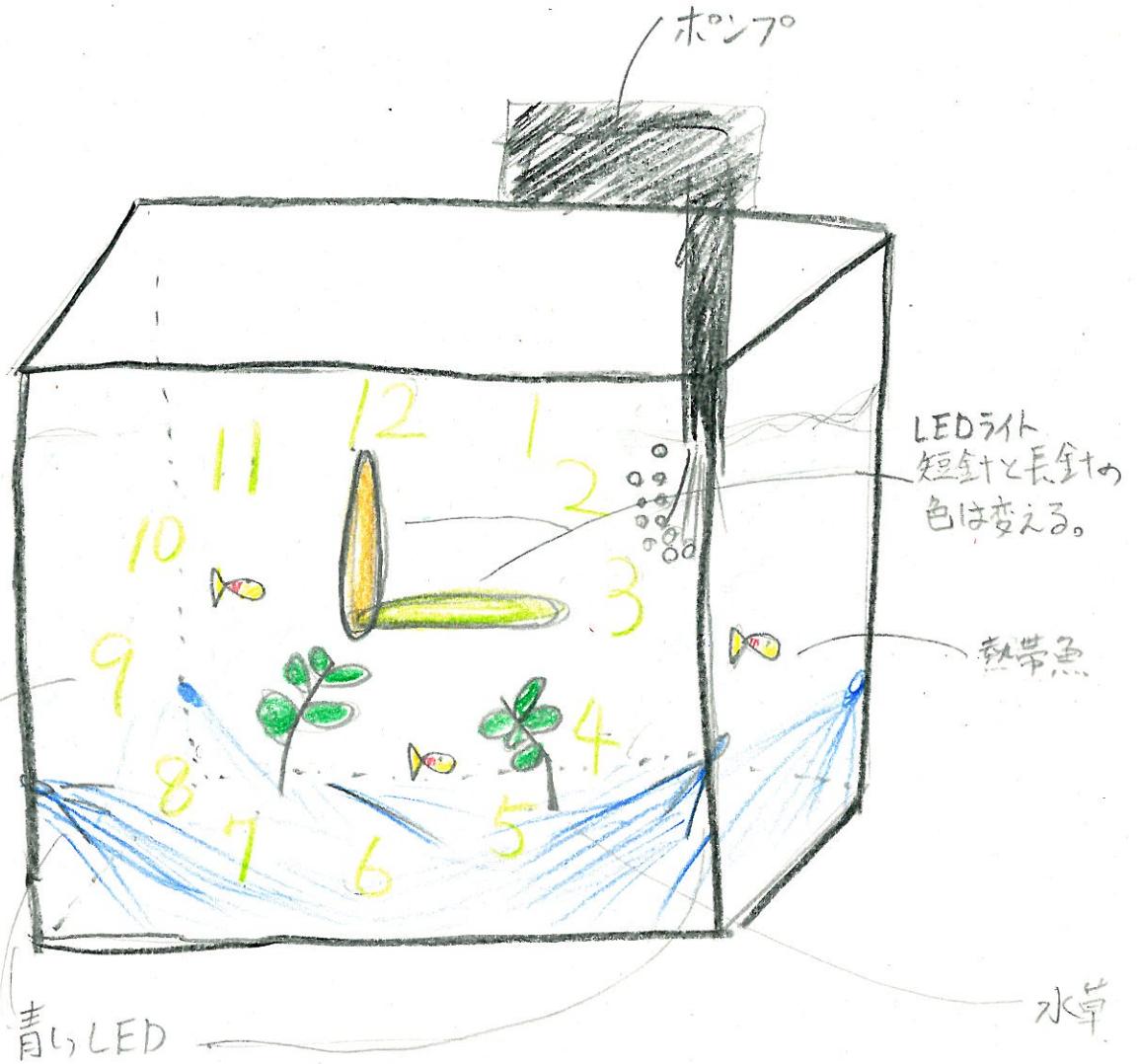


熊本大学工学部物質生命化学科

4年 101t1821 前田良介

私が提案する「あかり」は「水」と「光」と「生物」を用いた、癒しを提供するものです。日常に無くてはならないものとなった「あかり」。しかし、明かりは震災以降なるべく使わないといった節電を促す傾向があります。そこで今回、少ない「あかり」で人を癒すことはできないかと考えました。そこで思いついたのが、「癒し時計」です。私は癒しから連想した3つのものを組み合わせました。1つめは青い光、2つめは水、そして3つめは熱帯魚です。短針と長針には、LEDのペンライトから放たれる光の線のイメージです。文字盤には、電力を使わない蓄光の素材を用いて、部屋の電気を消した時に浮き上がる仕組みとしました。また、水槽の底面には青い光を当て美しい水の流れを強調します。その中を優雅に泳ぐ美しい熱帯魚は人を魅了します。この癒し時計は明るい部屋より電気を消した後の寝る前のひと時に焦点を当てています。



○短針、長針のLEDの色は様々な種類があり、自由にカスタマイズできる。

○ただし、水槽底面の青いLEDは個定、これは「明り」から「癒し」を提供するのがコンセプトだからである。